

IV. 大坂城

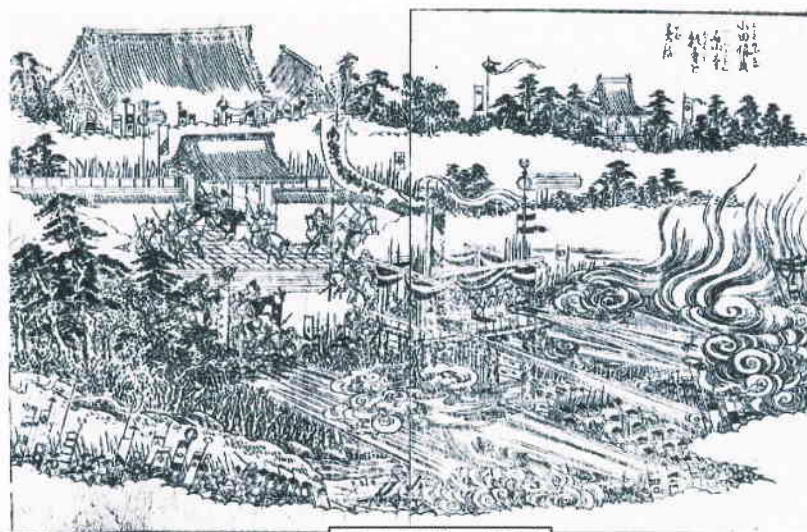
26 大坂城(大坂城の歴史について)

大阪市中央区大坂城

① 浄土真宗総本山 石山本願寺

- ▶ 大坂城の前身が石山本願寺でした。石山本願寺は、明応五年(1496)、本願寺8代目法主 蓮如が82歳のとき、石山御坊という隠居寺を建てたのが始まりです。山科本願寺焼き討ち事件の後、本坊が徐々にここへ移されることになり、城郭の造りを形成し、石山本願寺と呼ばれるようになりました。このあたりに巨石がたくさんあったことから「石山」と命名したそうです。
- 11代目法主 顕如の時、織田信長から「石山本願寺の明け渡し」を要求され、信長に抵抗し戦となります。
- 元亀元年(1570)より10年間に及ぶ石山合戦が起こり、天正八年(1580)、信長に降参します。明け渡し直前に不審火により、三昼夜にわたり炎上。城郭であった寺(御坊)は、灰となり全焼してしまいました。
- その後、大坂城が築城されますが何回か炎上します。
- この石山本願寺の炎上が第1回目の炎上で、この時、もっとも大きな抵抗勢力を退け勝利した織田信長は、この後、天下統一の礎を築いていくことになります。

※不思議なことに歴史が動く(政権の交代等)ときに大坂城は炎上しています。



石山合戦の絵図

② 大坂城の築城 ～初代城主 織田信長～

- ▶ 天正8年(1580)8月、石山合戦に勝利した織田信長は、石山本願寺跡地に城郭を築きます。これが大坂城です。
- しかし、この時の大坂城は、後世のそれとは規模が大いに違っており、石山本願寺の遺構に応急処置を加えただけの城郭に過ぎませんでした。信長が大坂城の初代城主となり、重臣の丹羽長秀・織田清澄らを常駐させます。
- 天正10年(1582)6月、本能寺で明智光秀に襲撃を受け、信長は最期を遂げますが、それまでの2年間、大坂城の城主は織田信長でした。



大坂城 初代城主 織田信長

③ 豊臣期の大坂城 ～天下統一の拠点として本格的な築城へ～

1) 第2代城主 池田恒興(いけだつねおき)

- ▶ 本能寺の変後、すぐに山崎の合戦により羽柴(のちの豊臣)秀吉が明智光秀を破ります。

天正10年(1582)6月27日、信長の家臣たちが清洲城に集まり、遺領配分を決める会議を行いました。会議の結果、池田恒興が摂津国を領することになり、大坂城主に就任します。

つまり、池田恒興が第2代大坂城主ということになります。

恒興が城主だった期間は1年未満であったため、応急に造られた大坂城の修復工事はしなかったようです。

その後、池田恒興は秀吉に仕え大垣城主となり、子の元助は岐阜城主となります。小牧長久手の合戦で豊臣秀吉と徳川家康が対戦した時には、秀吉方につき、長久手の合戦で討ち死にします。



大坂城 第2代城主 池田恒興

2) 第3代城主 羽柴(豊臣)秀吉

- ▶ 秀吉は柴田勝家を破り、名実ともに信長の後継者となります。天正11年(1583)、池田恒興を大垣に移封させ、秀吉自らが大坂城主となります。



大坂城 第3代城主 羽柴(豊臣)秀吉

3) 本格的な大坂城の築城

- ▶ 秀吉は大坂を政治の中心地とすることに決め、大坂城を安土城のような大規模な巨城にしようとし、天正11年(1583)9月1日から工事を開始します。

天正13年(1585)に第一期工事が終了。外郭工事が終了するのは、秀吉が病没する慶長3年(1598)です。約15年にも及ぶ工事は、想像を絶するほどの力の入れようでした。

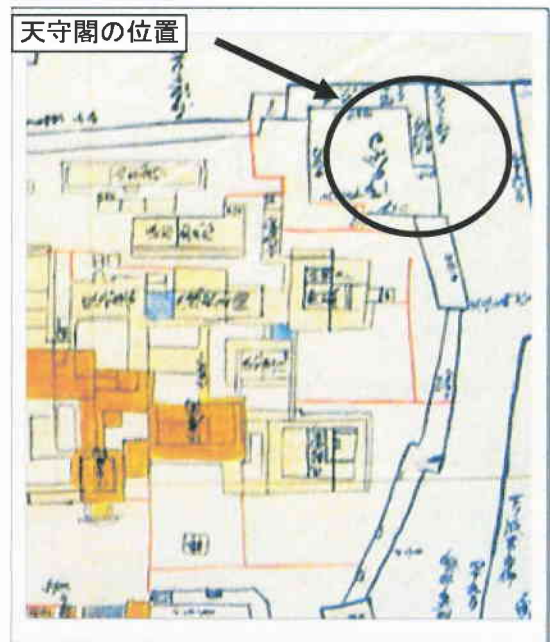
豊臣期の大坂城は、本丸(五層の天守閣)、山里曲輪(茶室がいくつもあり千利休が活躍した場所)、二の丸、三の丸(現在の国立大阪病院の裏通り辺り)から成り、現在の大阪城よりも数倍広大なものでした。大坂築城に伴う町づくりでは、その後の日本都市のモデルにもなります。

特に下水溝は現在でも使用されています。建物と建物が背中合わせになっているところに溝が掘られたので、「背割下水」あるいは「太閤下水」と呼ばれています。

本丸のあった場所は、「豊臣時代大坂城本丸図」という資料によると、現在の大阪城天守閣がある場所とは若干異なり、北東方面(約100m)にありました。



豊臣期の大坂城



④ 秀吉死後の大坂城(その1) ～2つの天守閣～

1) 第4代城主 豊臣秀頼

- ▶ 秀吉の死後、子の秀頼が後を継ぎ、第4代大坂城主に就きます。秀頼は年が若く、秀吉のような影響力がないため、五大老のひとりである徳川家康が次第に勢力を拡大させます。同じく五大老のひとりであった前田利家が、秀吉の後を追うように亡くなり、ますます家康の力が強大化していきます。



大坂城 第4代城主 豊臣秀頼

2) 徳川家康の台頭

- ▶ 慶長4年(1599)3月、秀吉の居城であった伏見城を自分の居城としてしまいます。同年9月9日、秀頼に対し重陽の節句のお祝いのため、伏見から大坂城に入城します。この頃、北の政所(秀吉の正妻)は西の丸に住んでいましたが、家康の来坂直後、西の丸を家康に明け渡し、京都の高台寺に移り住んでしまいました。家康は節句のお祝いが済んでも伏見に帰ろうとせず、西の丸に居座ります。



徳川家康

3) 大坂城に2つの天守閣が並び立つ

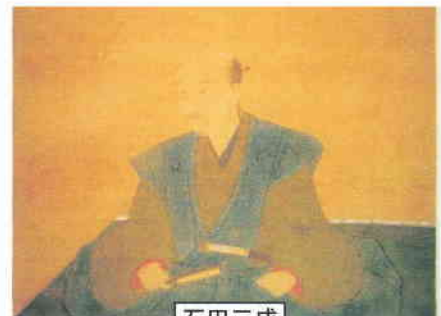
- ▶ 慶長5年(1600)2月～3月にかけて、家康は西の丸に天守閣の築城工事を開始します。姫路城も天守閣が2つ以上ありますが、大天守を中心に小天守があるといった造りです。しかし、この時の大坂城は、本丸と西の丸からは離れた場所に大天守が2つあることとなります。家康が2つ目の天守に居座ることで、豊臣の勢力と互角であることを天下に知らしめることを狙ったのではないかと思います。重要文化財に指定されている「大坂夏の陣図屏風」(大阪城天守閣蔵)に2つの天守が建っていた様子が描かれています。状況は異なりますが、徳川家康も大坂城の城主に就いたといえるかも知れません。その後、豊臣方と徳川方はますます溝を深めていく事になります。



⑤ 秀吉死後の大坂城(その2) ～大坂城の落城～

1) 徳川家康と石田三成の対立

- ▶ 「大坂城主はわしである。」と言わんばかりに、本丸の大天守閣に対抗し、西の丸にもうひとつの天守閣を建てた家康に対し、石田三成などが家康に対抗します。慶長5年(1600)9月、関ヶ原で家康の東軍と三成の西軍がぶつかり、わずか1日で家康は勝利をおさめます。慶長8年(1603)、征夷大将軍に任じられた家康は、江戸に幕府を開きます。



石田三成

2) 大坂城の落城

- ▶ 一大名に成り下がったとはいえ、豊臣家は依然として難攻不落の大坂城を持ち、他の大名に影響力がある存在でした。

慶長19年(1614)大坂冬の陣が起こり、外堀を埋めることで家康と和睦。

翌年の元和元年(1615)5月に大坂夏の陣が起こり、5月7日ついに大坂城が炎上。

5月8日、焼け残った山里曲輪の櫓に潜んでいた淀君、豊臣秀頼は自刃し、豊臣家は滅亡します。

徳川政権は安泰となり、江戸幕府はこの後250年間続きますが、それを決定づけたのは、織田信長の時と同様、大坂城(信長の時は石山本願寺)の炎上でした。



大坂夏の陣図屏風(大阪城天守閣・国指定重要美術品)

【番外編】徳川家康討死説

大阪府堺市に南宗寺というお寺がありますが、奇妙にも徳川家康の墓が境内にあります。言い伝えによりますと、大坂夏の陣の折、豊臣方の武将(後藤又兵衛との説あり)が家康本陣近くに攻め入り、あわてて籠で逃げる家康を槍で刺したとか。

虫の息で堺に辿り着いた家康はそこで息絶え、そして南宗寺に葬られたというのです。

(よくある作り話とお笑いになる方もいらっしゃるのでは)それを裏付けるものとして、元和9年(1623)7月に第2代将軍徳川秀忠、8月に後の第3代将軍徳川家光が、わざわざこの寺を訪れています。

明治期には、旧幕臣 山岡鉄舟もこの寺を訪れ、家康の墓の横に「無銘ノ塔 家康諾ス」

(※下記写真参照)と刻んだ石碑を残しています。

決定的な確証ではありませんが、火のないところに煙は立たぬと申しますから、可能性はあるのではないかと思います。



家康の墓の横にある「無銘ノ塔 家康諾ス」の石碑